

今月号の特集は梅毒です。一昨年の秋の編集後記でも梅毒について触れましたが、梅毒患者は1967年の約11,000名をピークに減少していたのが2010年以降再び増加傾向に転じ、COVID-19がアウトブレイクした2020年は若干減少したものの、2021年にはまた上昇し、2022年、2023年とさらに増え続け、2021年は全国で7,978名の感染者であったのが2023年はその倍近くの14,906名と過去最多の患者数となっています。男女ともに異性間性的接触による感染の増加が顕著になっているのが特徴で、梅毒の妊娠症例も大幅に増加しており厚生労働省は今までになく注意喚起を行っています。

梅毒の起源については諸説ありますが、アメリカ大陸を発見したコロンブス一行がもともとハイチの風土病であったものを1493年にスペインに持ち帰り、その後ヨーロッパで広がったとされています。その後梅毒は大航海時代の波に乗りバスコ・ダ・ガマの一行とともに1498年インドに渡り、東南アジア、中国を経て海外との交易が盛んだった琉球から日本に持ち込まれたと考えられており、1512年に京都で流行したとの本邦最初の記述が残されています。

アメリカ大陸発見からわずか20年で日本まで伝播したことになり、当時の交通事情を考えると驚異的なスピードであり改めて人の性を感じさせられます。翌年には江戸にもたらされ、徳川家康の次男結城秀康や加藤清正らも梅毒で命を落としたそうです。18世紀になると花柳界を中心に爆発的に流行し江戸幕府を悩ませ、江戸町民の感染率は10%に及んだという説もあるとのこと。第3期梅毒の症状である軟鼻のため、江戸時代の夜鷹には鼻欠けが多かったそうです。

梅毒トレポネーマが同定されたのは1905年のことで、野口英世が梅毒スピロヘータの純粋培養に成功したとして医学博士の学位を授与されていますが、誰も追試に成功しておらず、現在でも試験管内の培養は不可能で、菌の維持にはウサギの睾丸内で培養する以外に現実的方法はないそうです。

治療については梅毒トレポネーマが熱に弱いことに着目し、1927年マラリアに感染させて発熱により梅毒性麻痺性痴呆を治療する方法が考案され（マラリアはその後にキニーネで治療する）、ノーベル賞が授与されました。その後ペニシリンの発見によって治療法は大きな変貌を遂げ、梅毒は完治できる疾患になりましたが完全撲滅には至らず、現在に至っています。

なお、梅毒は5類感染症全数把握疾患に定められており、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出なければならないのはご存じのとおりです。

(五十嵐敦之)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第66巻 第6号 6月号

2024年6月1日発行（毎月1回1日発行）
定価 3,300 円（本体 3,000 円＋税 10%）

年間購読料金
定価 50,160 円（本体 45,600 円＋税 10%）
〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村 直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14
TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕
TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕
FAX 03(3813) 0288
ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005
広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。